

日韓合邦先決問題

日韓合邦ノ先決問題

日韓合邦ハ時勢ノ要求スル所ナリ民情ノ渴望スル所ナリ一進
會ハ此ノ要求渴望ヲ代表シテ率先之ヲ提唱セシニ端ナク
衆議ノ排斥ヲ受ケタリト雖モ爾來未タ數月ナラズニテ一進
會ノ主張ハ朝野一般ノ諒スル所ト爲リ今日ニ至リテハ既ニ合
邦ノ利害ヲ議論スルヲ要セズ唯合邦遂行ノ善後策ヲ研
究スベキニ合邦ノ方針ハ如何ニ善美ナルモ合邦ヲ遂行
スルノ手段適當ナラザル時ハ九仞ノ功ヲ一簣ニ缺キ思フ轉
シテ能言ト爲シ治ヲ求メテ亂ニ至ルコトアリ深思熟慮セザ
ルベカラザルナリ合邦遂行ノ前ニ横ハル大問題ハ左記ノ十

一案件ナリ此諸問題ヲ適當ニ解決スルト否トハ實ニ韓
國休戚ノ分ル所ナリ請フ鄙見ヲ左ニ陳ベシ

第一 韓國皇室ノ待遇

夫レ曰韓ノ合邦ハ名義上ノ合邦ニ非ズシテ實質上ノ合邦ナ
リ一時的ノ合邦ニ非ズシテ永久的ノ合邦ナリ故ニ之ヲ遂行ス
ルノ政策ハ公明正大ナル基礎、上ニ置カザルベカラズ若シ各分
ヲ明カニセズ事情ニ通ゼズ曖昧姑息ヲ是レ事トシ以テ目前
ノ安ヲ偷ルノ手段ニ出デシメバ百年ノ悔ヲ遺スヤ必セリ合邦ヲ

遂行スルノ公明正大ナル政策トハ何ゾマ曰ク日本ノ主權者

ト韓國ノ主權者トヲ同一體ナラシムルコト是レナリ天ニ二日ナク國

ニ二君ナシ其ノ仰グ所ヲ同一ニセズンバ何ヲ以テカ合邦ノ實ヲ

成サンヤ故ニ合邦ノ曉ニハ韓國皇室ヲ全ク政治ノ圈外ニ

立タシメザルベカラズ其ノ待遇ハ左ノ二様ニ分ツヲ適當トス

第一 韓國皇帝及ビ同親王ニハ日本皇族タルノ待遇ヲ賜

ヒ相當ノ年金ヲ贈與セラルベシ

第二 親王以外ノ韓國皇族ニハ親等ニ應ジ公侯伯ノ三爵

ヲ授ケ日本華族ニ列セラレ相當ノ公債ヲ給與セラルベ

此ノ如クナレハ以テ永遠ニ韓国皇室ノ尊嚴ヲ保チ李朝宗祀ノ威靈ヲ奉キスルニ足ルベシ一面ニハ日韓合邦ヲ宣言シナカラ一面ニハ韓国皇室ヲ曖昧模糊ノ地位ニ置クハ獨リ將來ノ統治上ニ妨碍アルノミナラズ韓国皇室ノ安泰祥福ヲ計ル所以ニモ非ルベシ故ニ此ノ際斷然解決ヲ共フルヲ可トス既ニ韓国皇室ヲシテ全ク政治ノ圏外ニ立タシムルハ隨ツテ事務ヲ減ジ屬員ヲ省クコトヲ得ベキヲ以テ自ラ經費ヲモ節約スルニ至ルハ多言ヲ要セザル所ナリ

第二 西班ノ處置

韓国ノ西班ハ其ノ員數非常ニ夥多ニシテ且ツ其ノ階級モ亦

々複雑ヲ極ム故ニ之ヲ處置スルニハ最モ精密ナル考慮ヲ要ス西班ニ二種アリ曰ク有位西班曰ク無位西班是レナリ有位西班ハ更ニ之ヲ分テ二種トス曰ク高級有位西班曰ク下級有位西班是レナリ此ノ如キ區別アルニ拘ハラズ若シ之ヲ一視同仁ノ下ニ置キ新ニ公債ヲ分共セントスルカ如キハ恐ラクハ策ノ得タルモノニ非ルベシ西班ハ日本維新當時ノ諸侯士族ニ似ルト雖ニ實質ニ於テハ彼此西者ノ間ニ大ナル差徑ヲ存ス日本ノ諸侯士族ハ常職アリ常祿アリ且ツ比較的少數ニシテ他ノ平民ト明カニ區別スルコトヲ得タレハ西班ハ之ニ及シ唯門地ヲ表スルノ空名ニ過キズ常職ナク常祿ナシ其ノ平民

ニ比シテ異ナル所ハ官吏ニ登用セラルコトヲ得ルノ一點ニ在レト
官吏タルコトヲ得ガルモノハ各地ニ散在シテ威福ヲ弄シ良民
ノ膏血ヲ吸ヒ坐食スルノミ而シテ彼等ハ祖先ノ功勞ニ依リ
子孫ハ西班タルノミナラズ西班ト親族ノ關係アルモノモ西班ト主
僕ノ關係アルモノモ皆ナ概シテ西班ト稱スルヲ以テ其ノ負數ハ
幾千幾萬ナルヲ知レバカラズ又西班ニ非スト雖モ地方將校
吏屬輩ハ殆ンド西班ト同一ノ態度ヲ取レリ若シ公債ヲ一般
ノ西班ニ分共セントセバ如何ナル標準ノ下ニ公債ノ金額ヲ定
ムベキカ又如何ニシテ真ノ西班ト西班ニ似ラ非ナルモノトヲ區別
スベキカ公債ノ分共ヲ以テ果シテ一般ノ西班ヲ満足セシメ得ベキ

ヤ否ヤハ疑問ニ屬ス西班中ニ於テ公債ヲ得タルモノト公債ヲ得
ガルモノトアラバ公債ヲ得タル西班ハ日本政府ノ恩惠ヲ感謝
スベシト雖モ公債ヲ得ガル西班ハ不平ニ堪ヘシテ紛擾ノ端ヲ
啓クヲ免レザルベシ假リニ一步ヲ讓リ公債ノ恩惠ハ悉ク一般
ノ西班ヲ潤澤シ毫モ不平ナシトスルモ彼等カ此ノ潤澤ニ浴セ
ル結果ヲ想像スレバ亦々寒心ニ堪ヘズ何トナレバ西班ハ懶惰
坐食ヲ以テ第二ノ天性ト爲シ苟モ今日ノ逸樂ヲ得レバ何ゾ
明日ノ困難ヲ意トセンヤ故ニ一タビ公債ヲ得レバ之ヲ獨立自
営ノ資ニ供スルモノナク忽チ飲食衣服ノ費ニ散ジ盡スベシ
日本商人ノ機敏ナルヤ能ク韓民ノ貯蓄心ニ之シキヲ知ルヲ

以テ彼等が飲食衣服ノ費ヲ得ルニ急ナルニ乘ジ大ニ公債買
收ノ手ヲ擴グベシ此ノ如クニシテ西班牙が日本政府ヨリ得タル公債
ハ一年ナラズシテ日本商人ニ歸シ西班牙ハ依然タル無一物ノ窮
境ニ沈マン而シテ初メ獨立自營ノ計ヲ爲サリシヲ悔キ却
ツテ怨言ヲ放テテ曰ハン日本政府ハ陽ニ公債ヲ共ヘテ恩ヲ示シ陰
ニ商人ヲ啖シテ之ヲ回收ス是レ韓人ヲ瞞着セルモノナリト不平
ノ徒囂々相和シテ群ヲ成シ黨ヲ結ビ各地ニ跳梁スルニ至ラハ
更ニ兵馬ヲ勞シテ之ヲ鎮壓セザルベカラザルコトナラシ此ノ如
クナレバ曩ニ公債ヲ共ヘタルノ恩ハ寧ろ口轉シテ讒言ト爲ルニ非
ズヤ然ラハ西班牙ヲ處置スルノ策ハ如何左ノ三様ニ分ツテ適

當トス

- 第一 高級有位西班牙ニ對シテハ位階ト功勞カト門地トノ三
者ヲ標準トシ等差ヲ定メ五分計ヲ授ケ日本華族
ニ列シ且ツ若干ノ公債ヲ共フベシ概數百名トス
- 第二 下級有位西班牙ニ對シテハ位階ト年齢トノ二者ヲ標
準トシ等差ヲ定メ若干ノ公債ヲ共フベシ概數五
百名トス

- 第三 無位西班牙ニ對シテハ特別就産所ヲ設置シ養育蠶
製糸漆織ノ技術ヲ教授シ獨立自營ノ途ニ就

カシム

右、第一第二ニ関シテハ別ニ説明ヲ要セズト雖モ第三、特別就
産所設置ニ関シテハ其ノ理由ヲ一言セザルベカラズ古來韓
國ノ絹織物ハ景モ名聲ヲ海外ニ博シ支那ニ對スル貢物、
如キモ主トシテ絹織物ヲ獻上セルコト歴史ニ明カナル所ナリ今
日ニテモ羊島ノ風土が特ニ養蠶ニ適當セルコトハ實驗者
ノ知悉スル所ナリ故ニ西班牙ヲ獎勵シテ養蠶製糸漆織ニ
従事セシムルコトハ一ニハ以テ各自ノ生活ヲ救フベク一ニハ以テ
積廢セル國産ヲ興スズシテ西班牙ハ前陳ノ如ク懶惰坐食ニ
慣レタルモノナレバ直ニ之ヲ驅リテ耕作漁撈ノ過働ニ服セシム
ルコトハ言フベクシテ行フベカラズ幸ニ養蠶製糸漆織ノ業ハ

其ノ勞働比較的輕微ニシテ且ツ西班牙ニ於テモ昔時ヨリ之ニ従事
セシ習慣アリハ體面ヲ傷クルノ嫌モナカルベシ其ノ方法ハ日本
政府ヨリ西班牙及ヒ一般韓民ニ對スル特別ナル恩惠支策トシ
テ施設スルモノニシテ全ク内部商工部度支部等ニハ關係セ
ズ從來日本政府ヨリ韓國農工商獎勵ノ爲メニ下渡セラレ
ル通常經費ノ外ニ一箇年約百萬圓十箇年經續支
策トシテ約壹千萬圓ヲ支出セラレ中央特別就産所ヲ管
理、下ニ各道ニ志百箇所、特別就産所ヲ設置シ西班牙
ノ志願者ヲ收容シテ竹簡易ナル養蠶術製糸法漆織法
ヲ教授シ或ハ蠶種ヲ頒テ之ヲ飼育セシメ或ハ桑田ヲ興ヘ

ラ之ヲ栽培セシメ或ハ彼等が修了セシ技術ヲ應用スルニ必要ナ
ル器具ヲ賞與シテ之ヲ奨勵セバ當ニ兩班ヲシテ獨立自營ノ
途ヲ得セシムルノミナラス一般ノ韓民モ亦々争フテ斯業ニ從復
スルニ至リ大ニ半島ノ富源ヲ開拓スルヲ得ン公債ヲ共フルコトハ
朝ニ兩班ヲ喜ハシメタニ兩班ヲ泣カシムルナリ特別就産所ノ設
置ハ永遠無窮ノ利益ナリ況ニヤ特別就産所設置ノ費用
ト公債ヲ共フル費用ヨリモ非常ニ低廉ナルニ於テヤ

第三 地方軍隊ノ増設

軍備ノ目的ハ獨リ有事ノ日ニ備フル爲メノミニアラズシテ平
時ニ在リテハ平和ノ保障タルニアリ殊ニ各人莫大主義我ニ支配

セラル、韓國ニ在リテハ軍隊ノ實在ハ能ク禍乱ヲ未済ニ防クノ
効アリ從來時々各地方ニ蜂起セル暴徒が常ニ兵力ノ備ハラ
カル所ニ起リ守備隊所在ノ地ニ未タ曾テ此不祥復ヲ見サ
リシ莫實ハ能ク之ヲ証スルニ足ルベシ

何レノ國ニモ不逞ノ徒アリ況ニヤ韓國、如キ無秩序ノ國ニ於テ
オヤ合邦實現ノ曉是等不逞ノ徒無智ノ良民ヲ使喚シテ
民心ノ動揺ヲ起サシメ多少ノ紛乱ヲ醸成スルナキヲ保スヘカラ
ス此紛乱ヲ未済ニ防キ又ニ血カスシテ合邦ノ大禁ヲ遂行セン
ト欲セハ之ニ先キテ韓國内地ニ守備隊ヲ充實シ不良ノ徒ヲ
ミテ愚民煽動ノ機會ヲ共ヘシメサルニ努メサルヘカラス

現時韓国ハ二個師團ノ駐劄アリ四月日本内地ノ師團ト交代セラルヘシト報セラル此好時期ヲ利用レテ徐々ニ軍隊ヲ増遣シ終ニ四個師團ニ増加セハ内外ノ人目ヲ驚カスレテ軍備充實ノ目的ヲ達スルヲ得之カ爲ノニ合邦遂行ノ曉幸ニ憂無キヲ日本 皇帝陛下ノ御稜威ヲ中外ニ示スヲ得ハシ

第四 地方税ノ免除

地方愚民ノ擾乱ヲ未嘗ニ防クハ兵力ノ普及ニ在リト雖凡是レ猶強制的ニ手延テ束縛スルニ同シ未タ以テ象徴ヲシテ悦服セシムルノ道トナスニ足ラス象徴ヲシテ心服セシムルノ道ハ一ニシテ足ラスト雖凡彼等ノ頭上ニ荷ヘル過重ノ負擔ヲ軽減シテ日本

皇帝陛下ノ御仁徳ヲ洽チク韓民ニ知ラシムルハ其最ナルモノナリ現時ノ制度果シテ茲ニ鑑ミル所アリマ甚々疑ナキ能ハサルナリ由來統監府ノ創設以來酒税煙草税家屋税市場税等ノ税目ヲ設ケテ漸次ニ地方税ノ負擔ヲ増加セシメシ結果今ヤ地方ノ貧民塗炭ノ苦境ニ沉淪セルノ状態ハ一タヒ足ラ韓内地偏僻ノ地ニ入ルモノ、皆均シク眉ヲ擡ムル所ナリ想起ス日露路戦争ノ際 大皇帝ノ苛斂誅求甚タシク庶民其負擔ニ堪ユル能ハス道ニ餓ニ子ヲ見ル日ニ幾十人ナルヲ知ラス 大皇帝ハ萬民ノ怨府トナリ一人ノ陛下ヲ咒咀セサルモノナキニ至リ一進會之ヲ啜視スルニ忍ヒス多敷

ノ生命ヲ犠牲ニシテ宮内府ニ迫リ百方救済ニ勉メシ切空
シカラス幸ニシテ不當ノ税ハ悉ク免除セラレシコトアリシヲ然ル
ニ今又統監政治ノ下ニ此苛政ヲ復活ス畏キニ象怨
大皇帝陛下ニ集マリシモノ今ハ特サニ日本 皇帝陛下ニ
向ハントス豈恐レサルヘケンヤ斯ク論ニ来ラハ當局者或ハ曰
ハン免税ノ弊ハ懶惰ノ氣風ヲ養成スルニアリ免税ノ期間
一タニ去リテ納税ヲ促カルヤ彼等ハ必ス立ツテ之ニ反抗セン
ト此論ハ文明ノ程度稍高キ國ニ在リテハ真理タルヲ疑ハス
ト雖モ韓國ノ如キ貧弱國ニ適用スルヲ得ヘキ真理ナルヲ首肯
スル能ハス抑モ韓國ハ世界ニ其例ヲ見サル貧弱ノ國ナリ其

國人ハ豚小屋ニ均シキ倭屋ニ起卧シ乞食モ尚小顧ミサル敵
衣ヲ纏ヒ一椀ノ食一杯ノ水纏カニ飢ヲ凌クヲ得ハ以テ足レ
リトセル生活程度極メテ低キ貧民ナリ然ルニ今之ヲ他ノ裕
福ナル國民ト同一視シテ之ニ納税ノ義務ヲ負ハシメントス
是レ民ノ膏血ヲ絞ルノ行爲ニアラスシテ何ツヤ
此不幸ナル貧民ヲシテ他日納税ノ義務ヲ負ハシムルニ足ル
生活状態ニ改善スルノ道ハ之ニ産業ヲ興ヘ税源ヲ培養
スルノ一途アルノミ是レ一ニ合邦後、韓國統御者ノ手腕ニ
待ツ所ニシテ其功績能ク韓國産業ヲ發達ヲ促進シ貧民
ヲシテ喜ンテ納税ノ負擔ニ應スルニ至ル時期ノ一日モ速カニ

来ラントトテ日韓兩國ノ爲ノニ切望ミテ止マサルナリ其茲ニ
達スルノ間ハ全然地方税ノ負擔ヲ免除シ韓国貧民ヲシテ
日本 皇帝陛下御仁徳ノ偉大ナルニ感激セシムルハ適切ノ施
政ニシテ今日合邦遂行前ニ在リテ殊ニ之レガ断行ヲ切望
スルハ多年虐政ノ下ニ懊惱セル一般ノ民心ヲ和ケ彼等ヲシ
テ合邦後ニ於ケル仁政ノ益大ナル可キヲ期待セシメ以テ合邦
ノ遂行ヲ円滑ナラシメントスル希望ニ外ナラズ

第五 憲法ノ施行ニ猶豫ヲ興ヘ韓国ニ特別法ヲ施行

スルガ爲ノ之カ準備ニ着手スルコト

一 國ノ憲法法律ハ其國固有ノ風俗習慣ヲ基礎トシ文明

ノ程度ニ應ジテ之ヲ制定セサルヘカラス故ニ今俄カニ日本人ニ
適應セル憲法法律ヲ取リテ風俗習慣ヲ異ニシ文明ノ程度
甚シク懸隔セル韓國人ニ之ヲ適用セントスルハ固難方桎梏
融和スル道ナキハ蓋シ何人モ親易キ道理ナルヘシ之ヲ世界ノ
殖民史ニ徴スルニ由來殖民地ヲ經營スルニ當リ殖民地ノ風俗
習慣ヲ度外ニ置キ母國ノ憲法法律ヲ其儘殖民地ニ適用シ
タル國ニシテ未ダ嘗テ成功シタル實例アリシヲ見ス西班牙、葡
萄牙、和蘭、等皆然リ獨リ英國ハ他國ノ實例ニ鑑ミ多年ノ
實驗ニ徴シ茲ニ曉ル所アリ殖民地ノ經營ハ全然之ヲ總督ニ一
任シ之ニ無限ノ権限ヲ與ヘテ法律制定、最高府スラシノ其立

法及ニ施政ニ関シテハ母國一切之ニ容喙セズ是レ今日英國カ
世界ニ跨ル殖民地ヲ有シテ十カウ著ク其經營ニ苦心セシ所
以テ日本ガ臺灣白領後此地ニ臺灣總督ヲ置キ法律第六
十三號ヲ以テ之ニ特別法制定、權ヲ與ヘシハ蓋シ英國ノ制度
ヲ斟酌セシニ由ルナラン然ラハ日韓合邦ノ後日韓人互ニ相
近キ風俗習慣漸次相接近シ韓國文化ノ程度亦日本人
ト比肩スルノ時ニ至ル、間十年乃至二十年間ニ於ケル過渡ノ
時代ニ在リテハ朝鮮ノ總督ニ臺灣總督以上ノ權限ヲ與ヘ韓
國ノ風俗習慣ヲ基礎トシタル特別法ヲ制定セシメ之ヲ韓國
ニ適用セシメサルヘカラス

合邦ノ曉韓國ニ特別法ヲ施行セサルヘカラス理由斯クノ如シ
然ラハ人ニヨリ之レカ準備ニ著手シ韓國ノ風俗習慣ヲ研究シ
テ特別法ノ腹案ヲ立テサルヘカラス是ニ於テ旧慣調査局設立
ノ必要起ル抑モ一國ノ風俗習慣ヲ研究スルハ決シテ容易ノ業
ニアラス統監府設立以來既ニ六星霜未タ一トシテ調査ノ完
了セルモノアルヲ聞カサルハ一ニ統監府ノ茲ニ留意セサルニ由ル
ト雖亦以テ調査ノ困難ナルヲ知ルベシ此困難ナル支葉ヲ完
成セント欲セハ統監府ニシテ信賴シテ以テ足レリトナスベカラス
宜シク旧慣調査局ヲ創設シテ普子ク韓國ノ交情ニ精通ス
ル有爲ノ才ヲ網羅シ韓國在來ノ旧慣風俗ヲ専心調査セ

シメカレハカラス

第六 大皇帝陛下ヲ東京ニ移シ奉ルコト

由來韓宮庭ハ陰謀ノ府タリ 大皇帝陛下ノ聰明ニシテ尚
且ツ屢ハ陰謀家ノ為メニ弄セラル。所トナリ之カ為メ徒來韓
國ノ運命ヲシテ危殆ニ陥ラシメシ實例幾チケテ數フベカラス過
去ノ事例ハ今茲ニ陳ブルノ母ナシト雖昨今世間ノ確信スル
所ニ由レバ近頃 大皇帝陛下ハ米田宣教師ノ為メニ買
收セラレシ侍從等ノ甘言ニ惑ハサセラレ頻リニ耶蘇教旨ニ
耳ヲ傾ケラルト云フ又頃日來、李夏榮中心トナリテ劃策セリ
ト称セラル。韓國中ニ運動ニハ 大皇帝陛下モ亦關係セラ

レ之ニ要スル資金ハ 陛下陰力ニ之ヲ供給セラルト傳ヘラル。ア
リ是等風説ノ真偽ハ固トヨリ断定ニ苦シムト雖過去ノ夏
實ニ徴スレバ全ク虚構ノ説トシテ之ヲ祛クル能ハス若シ又現
今斯クノ如キ夏實ナシトスルモ將來之ニ勝ル重大ナル陰謀ノ
企畫セラル、ナキヲ保スベカラス今ニシテ此禍根ヲ絶テ韓宮
庭ヲ清掃スルハ最モ時宜ニ過シタル處置ニシテ之ヲ行ハントセハ
此際 大皇帝陛下ヲ東京ニ移シ奉リテ韓宮庭内不逞
ノ徒ニ陰謀ノ中心ヲ失ハシムルノ外良策アルヘカラス

第七 韓國ノ高等警官察ハ之ヲ憲兵隊ニ監督セシム

ハシ

現今ノ制度ニテハ警視廳警保局及ヒ憲兵隊ノ権限一定
セズ各其権力ヲ爭フテ互ニ相讓ラズ各其功名ヲ競フテ互ニ相
嫉視スルノ結果一般人民ハ往々罪ナクシテ不慮ノ奇禍ニ罹ル
コトアリ或ハ又犯罪者ニシテ所討シ免カルコトアリ罪刑一ナラズ
人民帰向スル所ヲ知ラサルハ實ニ現制度ノ弊ナリトス且ツ支レ地
方ニ於ケル警察、不備無秩序ニシテ警察吏、偷安苟且ナル
ヤ犯罪者アリト雖之ヲ捕フルノ道ヲ知ラズ陰謀アリト雖之ヲ
探偵スルノ術ヲ講セズ母閑トシテ唯其日ヲ過スノニ宜ヤリ安
重根、李在明、先行アルニ其策源地ノ何レ、所ニアルヲ知ラズ
其共謀者、誰タルヲ探クルニ由ナク徒ラニ狂噪シテ益民心ヲ混

亂ニ陷ラシメシヤ警察ノ無秩序不統一實ニ斯クノ如シ今ニシテ
之ヲ匡正セズニハ合邦ノ曉平和ノ保障トナリ良民ヲ保護スルコト
能ハサルハ勿論日本ノ威信ニ関スルコト實ニ大ナリ然ラハ之ヲ匡
正スルノ道如何曰ク憲兵隊ヲシテ高等警察ヲ監督セシムルノ
制ヲ立テ以テ警察權ノ統一ヲ計ルニアリ

第八 韓人ヲ下級官吏ニ採用スルコト

現今中央及ヒ地方ノ官廳ニ於テ屑々タル小官吏ニ至ルマテ日本
人ヲ用ユルハ實ニ統監政治ノ通弊ナリトス元來韓國ニ来リテ
特別任用令ノ下ニ判任官トナリテ少月給ニ母ニスルノ輩ハ日本内
地ニ身ヲ容ル、能ハサルモノカ然ラカレハ身分以上ノ增收ヲ得ント

スル懶惰漢ニ過キス是等ノ徒一々官ヲ獲ルヤ上ニ對シテハ阿諛
弁倭唯其位地ヲ失ハサランヲ恐レ下ニ對シテハ暴戾放恣唯私意
ヲ充タサンコトヲ希フノミ甚シキニ至リテハ或ハ婦女ヲ姦シ或ハ財
ヲ貪リ殘忍酷虐溥至ラサルナシ地方純朴ノ民是等ノ小官吏ヲ
惡ムコト暴徒ヲ惡ムヨリ甚シト云フ其暴狀知ルヘキノミ
今是等ノ小人ニ易フルニ韓人ノ教有アルモノヲ以テセハ使役ニ系
噴ナル点ト經濟ノ点トニ於テ其益スル所既ニ大ナリ職務ノ点トニ於テ
是等無賴ノ徒ニ勝ルコト決ミテ同日ノ論ニアラサルヘシ韓人無
智ナリト雖能ク監督シ能ク鞭撻セハ豈徒勤勉ナル良吏タル
ニ難カラシヤ

第九 通譯撰擇ノ事

日本人タルト韓人タルトニ論ナク外國語ニ堪能ナルモノニシテ志操堅
固ナルモノ實ニ稀ナリ殊ニ通弁ヲ常職トスルモノニシテ然カリ俗ニ
通弁根生ト云ヘル語ハ眞ニ味フニ足ル之ヲ韓国ニ在ル日本人通
譯ニ見ルモ亦此言ノ謬ヲナルヲ知ルヘシ彼等ハ上官若クハ周圍
ノ日本人カ韓語ニ通セサルヲ奇貨トシ種々ノ奸策ヲ弄ラシ日
韓兩國人ノ間ニ立チテ或ハ財ヲ掠メ或ハ人ヲ瞞著シ貪婪飽ク
所ヲ知ラス誦詐底止スル所ナシ而シテ彼等カ其罪惡ヲ隱ル故
スルノ術ニ巧ミナルヤ同醜相集マリテ互ニ固ク相結托シテ徒党ヲ
結ビ系統ヲ立テ偶廉潔ノ同輩アレハ之ヲ排擠シテ穴窟地ニ陷

レ又由、立ツ能ハカルニ至ラシメノ外間ヨリ其内部ノ秘密ヲ窺知ス
ル能ハカラシムルニ汲々ナリ是ニ於テ醜聲容易ニ外ニ洩リス其
罪益ス内ニ増大シテ其弊今マ穿トシテ抜クヘカラサルモノアリ
是レ實ニ一日モ看過スル能ハカル害毒ナリトス此際此忌ムヘキ
通糸系統ヲ打破シテ彼等ノ爪牙ニ四推リテ悲境ニ沉淪セル
有爲廉潔ノ士、爲メニ登用ノ門ヲ開クハ亦今日ノ急務ナ
ルベシ

第十 韓国警察所、文部ヲ東京ヲ置クコト

韓国ノ青年ニシテ東京ニ留學スルモノ現今約七百人彼等ハ
韓内地、浦塩、斯德及ビ米國、耶穌教徒ト互ヒニ氣脈ヲ通

シ排日思想ヲ彼等ノ間ニ鼓吹シ延キテ各地ノ韓人ヲ誘惑シ
ツ、アルノ現況ハ往々夏實ニ顯ハル、アリ一進會カ合邦論ヲ提
唱セルヤ彼等ハ總代ヲ撰ビテ之ヲ韓国ニ派遣シ學生ニアルミジ
キ輕拳ニ出テントセシ夏蹟ハ一再ニシテ止マラス今後彼等ノ爲
ス儘ニ放任セハ其危害測ルヘカラサルモノアリ抑モ韓内地ノ青
年ハ日本ノ夏情ヲ知ラス無意識ニ附加雷同スルモノナレハ其害
毒ノ及ブ所廣カラスト雖東京ニ在ル韓人ハ一般内地人ニ日本
ノ夏情通曉者トシテ信セラレ且ツ文明ノ先覺者トシテ宗
拜セラル、モノナリ然ルニ是等ノ留學生ニシテ排日主義ノ先驅
者トナリテ無智ノ韓民ヲ龍蓋セシカ其禍害ノ及ブ所決シテ

偏少ニアラサルヘシ當局者能ク此支情ヲ洞察シ韓國敬言寮
ノ支部ヲ東京ニ設ケテ絶エス留學生ノ挙動ヲ監視シテ韓内
地ノ警察ト常ニ氣脈ヲ通シテ百年ノ禍根ヲ未萌ニ絶ツノ
策ニ出テカルヘカラス彼ノ東京ノ普通敬言寮ノ一任ニテ韓國
留學生ノ監督ヲ輕視スル如キハ識者ノ採ラサル所ナリ

因ニ記ス日韓合邦成立後日本内地ニ來ル韓人數ヲシ
テ可及的ニ増加セシメノ改米諸外國ニ向テ移住韓民ノ數ヲ可
及的ニ減少セシムルノ政策ハ韓國從來特種ノ弊風ニ鑑ミ又
西國人ヲシテ互ニ相接觸セシメントスル殖民政策上最モ適切
ナルモノトス而シテ其方法ハ一ニシテ是ラサルベシト雖外國行ノ

旅行券下付ノ手續ヲ嚴重ナラシムルモ其一良法タルヘシ

第六 合邦問題ノ殊末ハ現内閣ヲシテ處分セシムルコト

國際公法上合邦ノ宣言ハ日韓西政府ヨリ同時ニ之ヲ内外ニ發
布セサルヘカラス此最後ノ殊末ハ李完用内閣ヲシテ其任ニ當ラ
シメ最終ノ切ヲ李完用一派ノ手ニ歸セシムルモ敢テ妨ケナシト
信ス李完用内閣ノ不人望今ヤ其極點ニ達セシコト爭フヘカ
ナル事實ナリト雖合邦後ニ當然廢滅セラレヘキ短命ノ内閣
ヲ新タニ組織スルノ必要尠ナキカ如シ

回顧スレバ日本カ宗主國トシテ韓國指道す、任ニ當リシ以來韓
國ノ支情ヲ解セズニテ徒ラニ表而上ノ推測ニ基キ種々ノ計

日韓合邦後、韓國制度

畫ヲ施シ失敗ニ陥レルノ例ハ枚舉ニ違アリズ人々合邦ヲ遂行
 セントスルハ之ヲ大ニシテハ東洋ノ禍源ヲ塞ギ之ヲ小ニシテハ韓民ノ
 慶運ヲ開キ西國ヲシテ一家春風ノ平和幸福ヲ謳歌セシメ
 ントスルモノナルヲ以テ上ハ名分ヲ明カニシ下ハ實情ヲ悉クシ適
 當ナル政策ヲ執リテ合邦ノ大業ヲ完美ナラシムルコトヲ切望
 惓願、至ニ堪ヘカルナリ

從一品勳一等宋秉畷

